

京極読書新聞 <第10号>

発行日 平成22年 2月 1日(月)
京極町生涯学習センター湧学館

石川啄木読書会に参加して

小暮 瑞穂 (こぐれ・みずほ)

4月に京極町に越してきてから、広報で目にした石川啄木読書会の案内に、私は苦い過去を思い出した。かつて中学校で国語科の授業を担当していた際、一人の生徒から拳がったこのつぶやきである。

「啄木は北海道にたった1年しかいなかったのに、住む場所も仕事も転々として、だらしない？」

正直なところ、当時の私自身そう思っていた節があり、啄木の魅力を理解せず伝えきれなかった自分の拙さを恥じ入り、受講を決めた。

全8回に渡る読書会の中でも特に印象深いのは、6回目の読書会で催された、後志に点在する啄木歌碑やゆかりの地を実際に巡る文学散歩である。倶知安駅前や旭ヶ丘公園に静かにたたずむ歌碑、

「真夜中の倶知安駅に下りゆきし女の髪(びん)の古き痕あと」
「馬鈴薯の花咲く頃となれりけり君もこの花を好きたまふらむ」



の存在は、日本を代表する歌人が100年前にこの身近な土地を通過した確かな証である。また、小樽に移り住んだ啄木が最初の間借りした家(現在は食事処)で、握り寿司に舌鼓を打ちながら、かつての啄木の息吹に思いを馳せた。

北海道での啄木は、トラブルにあい毎度長続きしない仕事に加え、自転車操業的に繰り返される借金、郷里の岩手から妻子や親族を呼び寄せるも次々と別の女性に心魅かれるなど、人としてその生き方は確かに「だらしない」と映らなくもない。しかしその一方で、自分をごまかさず偽ることなくその感性を31文字に乗せて表現した、その愚直なまでの人間くささもまた、魅力なのかもしれない。

このような学びの機会に、改めて感謝申し上げる。

石川啄木読書会スケジュール<全8回>

- 5月26日(火) 「渋民から函館へ」
- 6月16日(火) 「函館の夏」
- 7月14日(火) 「橘智恵子」
- 8月18日(火) 「函館から札幌へ、札幌から小樽へ」
- 9月15日(火) ※新型インフルエンザ流行のため中止
- 10月17日(土) 「後志・啄木をめぐるバスの旅」
- 11月17日(火) 「小樽日報社」
- 12月15日(火) 「病院の窓」



京極読書新聞は
毎月1日発行です。

2009年度 出前図書館

～ 南京極小学校 編 ～

一年間をふりかえって

南京極小学校 宮崎 由紀子 (みやざき・ゆきこ)

私は、この夏から復職させていただきましたので、最初『出前図書』とお聞きした時は頭の中が？(はてなマーク)でいっぱいになりました。でも、子ども達に「明日は出前図書の日だそうですよ。」と話す、児童は瞳を輝かせて「わあー早く来ないかな。」という様子でしたので、私もウキウキしながらその日を待ちました。

次の日、重そうな沢山の本をかかえた司書の方々が来校して下さいました。南京小では昼休みにお話していただいているのですが、子ども達は歯磨きが終わると、すぐに給食を食べていた図書室に戻ってきてブックトークを楽しく聞いています。本の紹介の他、木の実の本の時に一緒に持参していただいた『どんぐりの実で作ったオブジェ』などにも、大変興

味・関心を持ったようでじっくり眺めたり、「今度、作ってみたい。」と言ったりしていました。

もともと本が好きな子が多く、週3回ある読書朝会の時間も、声を出して読んだり、読書記録カードに熱心に書きこんだりしています。出前図書が始まってからは、紹介していただいた本を読む機会が増え、給食後のちょっとした時間に、一生懸命ページを繰る子の姿がよく見られました。

出前図書の活動のお陰で、私も子ども達と本を通しての話題を増やすことができました。これからも「今月はどんな本がやってくるのかなア。」と児童と共にワクワクしながら待ち続けたいと思います。



南京小ブックトークで感じたこと

湧学館 佐々木 和恵(ささき・かずえ)

パソコン多様の昨今、インターネットは大変便利、子どもたちはゲームが大好き。でも南京小の子どもたちは本も大好きでした！「冒険の本」、「木の実の本」など、毎回一つのテーマに沿って本を紹介するブックトーク、南京小のみなさんは、予想をはるかに上回る反応で答えてくれました。毎回目をキラキラさせて全員が興味津々で話を聞いてくれます。本が大好きなうちに、子どもたちに読書に親しむ機会を提供し、読書習慣が身につくように働きかけることは、学校教育、社会教育、家庭教育の大切な役割だと実感しました。これからも益々本を好きになってもらえるような楽しいブックトークを考えていきたいと思っています。



南京小出前図書館 実施スケジュール

6月18日(木) / 7月16日(木)
 8月20日(木) / 10月22日(木)
 12月17日(木) / 1月28日(木)
 2月17日(水) / 3月18日(木)

2009年度 出前図書館

～ 京極中学校 編 ～

一年間を振り返って

京極中学校 高瀬 志恵 (たかせ・ゆきえ)

今年度は1学期に2回、2学期に2回、合計4回の出前図書を行なっていただきました。何かと行事の多い3学期の実施は計画に入れませんでしたので、今年度の出前図書は12月が最終回ということで、図書の展示については終了しています。(図書の貸し出しは年度末まで継続してもらっています。)

湧学館からは出前図書とは別に、調べ学習などで活用できるように、発行年数の新しい百科事典や年鑑を長期的に貸し出していただいています。また、京極読書新聞の大型版の掲示、小型版を希望者へ配布するなどの啓蒙活動も定期的に行っていました。

中学校の出前図書館事業の内容は本の選定、運搬、展示、貸し出しという流れで行なってもらっています。中学生が興味を持ちそうな本、又は学習に関係のある本などを選んで持って来てもらっています。毎回段ボールにたくさんの本を入れて運んでいただき、生徒の昼休みにあわせて展示をしてもらい、その後、書架に移動させ、次の実施日まで置いておき中学校の蔵書と同様に貸し出しも行なっています。

毎回たくさんの新しい本が展示され、図書室の雰囲気も新鮮な感じになります。読書のための生徒の来室も増えてきています。今後もこのような事業を細く長く続けていただければと思っています。



出前図書館 一年を振り返って

湧学館 打越 靖子(うちこし・やすこ)

中学生のみなさんに少しでも多くの本に接する機会をと始めた出前図書館ですが“中学生が読んでくれそうな本は?”と考えるとなかなか難しく、毎回同じような本を選んだりと試行錯誤の中で1年を終えたような気がします。

また、今年は新型インフルエンザ大流行の影響で中止になった回もありましたが、回を重ねる毎に少しずつ顔を出してくれる生徒が増え、毎回顔を見せてくれる“常連さん”もできてうれしく思いました。短い昼休み時間だけではなかなか貸出まではいきませんが「まず本を手にとってみる」という目標には近づいているので今後もこういう機会を続けて提供できたらと思います。

出前図書とは関係がありませんが、行く度に図書室の本が書架にきれいに分類され並べられていくのを見るのはとてもうれしかったです。



京極中出前図書館 実施スケジュール

6月 9日(火) / 7月 7日(火)
9月 8日(火) / 11月10日(火)



展示コーナー紹介

AVブース横の展示コーナーでは、月替わりで資料の展示を行っています。ここでは2009年度の展示テーマを振り返り、写真とともにご紹介します。



▲7月「世界天文年2009」



▲12月「クリスマス絵本」



▲4月「しかけ絵本」



▲10月「読書週間～思わず夢中になった1冊」

<その他の展示テーマ一覧>

- 5月「石川啄木・平家物語関連本」
- 6月「アウトドア」
- 8月「工作/戦争について考える本」
- 9月「体力づくり&健康づくり」
- 10月「食の秋～おいしいおはなし」
- 11月「外国文学」
- 1月「大型絵本」
- 2月「若い人に贈る読書のすすめ」

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.cubet.com/>

